

## 欧州の街並みを体感して（スペイン～ドイツの4か国）



株式会社オリエンタルコンサルタンツ  
事業本部 構造部

久木留 貴裕  
KUKIDOME Takahiro

### はじめに

今回の視察に参加させて戴いたきっかけとして、平成27年度建設コンサルタント業務・研究発表会において、「津波避難シェルターの構造形式」と題したプレゼンテーションを行い、幸運なことに優秀賞を戴き、その副賞として、欧州インフラ事情調査の切符を戴いたことである。

主な視察内容は、各都市の都市開発事情調査が目的であり、ヨーロッパにおける港湾整備状況、港とリゾート開発、都市における再開発状況、地方都市における観光開発、環境に配慮したまちづくり等についての調査を行うことであり、特徴的なまちづくりを体感することが目的であった。

入社してから8年間、建設コンサルタントとして構造分野で、橋梁、トンネル等の設計業務（とりわけ耐震分野）に従事している私は、どこに視点を持っていけば良いのやらと望んだ旅でありました。いざ、始まると思えば異なる風景により、刺激の多い実り多い視察となりました。本報告では、現地で体感した内容について述べる。

### 視察の概要

平成28年6月8日～6月17日の10日間にて、スペイン：バレンシア→バルセロナ→フランス：グルイッサン→ミヨ→モンペリエ→リヨン→シャモニー→スイス：ベルン→ドイツ：フライブルグ→バーデン・バーデン→コブレンツ→ケルン→デュッセルドルフの4か国13都市を訪問し、移動途中の街並みを視察する旅であった。主な移動手段としては、高速バスと鉄道での旅であった。

今回視察を行った各都市は、スペインのバレンシア、バルセロナこそ人口100万人を超える大都市であるが、他の都市については、人口では中規模あるいは、小規模の都市であった。

### 電柱のない街並み

各都市を巡る中で、私が最も印象に残った点としては、スペイン、フランス、スイス、ドイツの各都市とも電柱を街中でみることがなく、電柱は地中化されている点である。それも、主要都市の中心市街や観光地のみではなく、人口10万人程度の規模の都市においても、ほとんどの電柱が地中化されており、電柱が見当たらないところである（写真1、2）。日本においても、近年、電柱の



写真1 バレンシア市街の様子

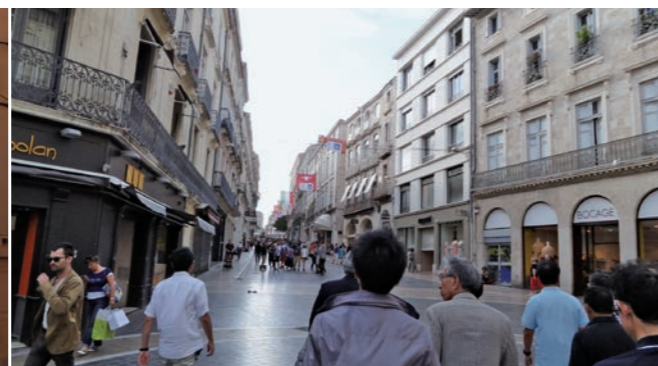


写真2 モンペリエ市街の様子

地中化は議論されており、主要都市の中心市街や観光地等では、電柱のない風景が見られるものの、大都市においても地中化率は、10%にも満たないのが現状である。電柱が地中化されていることで、街なみの美しさを際立たせ、また、狭い路地にも電柱がないことから、交通・美観・安全性が優れていると感じた。



写真3 レンタルサイクルと自転車専用道路

### 市民の足として活用される自転車

次に特徴的だった点として、市民の足として活用される自転車である。今回訪問したスペイン、フランス、ドイツの中核都市では、レンタルサイクルの貸出スポット、自転車専用道路が整備（写真3）されており、自転車が市民の足として定着している様子が伺えた。最近では、東京等でもレンタルサイクルが始まり、自転車専用道路等の整備が進んでいる状況にあると思う。先進的に整備・活用されている中で、貸出のシステムや道路整備で学ぶべきところを感じることが出来た。

### シャモニーの氷河

第1回冬季オリンピックが開催された都市とされる山間の街シャモニーでは、天候不良により、当初の予定を変更し、ロープウェイで山を登り、氷河を見ることになった。余談ではありますが、この氷河は、観光資源にもなっており、氷河の洞窟を散策できるようになっている。

この氷河は、温暖化の影響もあり、年々、溶けているとのことである。現地では、ロープウェイの位置から、氷河まで階段が建設されているが、途中の数10mの間に各年代までに氷河があった地点が標記されており、数10年の間での氷河がどの程度なくなったかが、体感できるようになっている（写真4）。普段、感じる機会は少ないが、地球温暖化による影響を肌で感じる機会となり、環境への配慮を考えさせられる機会となった。

### おわりに

今回の視察では、通常見ている日本とは異なる街づくりを肌で実感することで、都市整備におけるスケール感や戦略を感じることができ、普段から視野を広げて、インフラ整備に従事することの必要性を認識することが出来ました。

最後にはなりますが、長いようで短かった10日間の間、時間を共有し様々な気づきをともに享受でき、良い経験になりました。今回の視察をご同行戴きました、中村先生をはじめとする団員の皆様へ感謝致します。

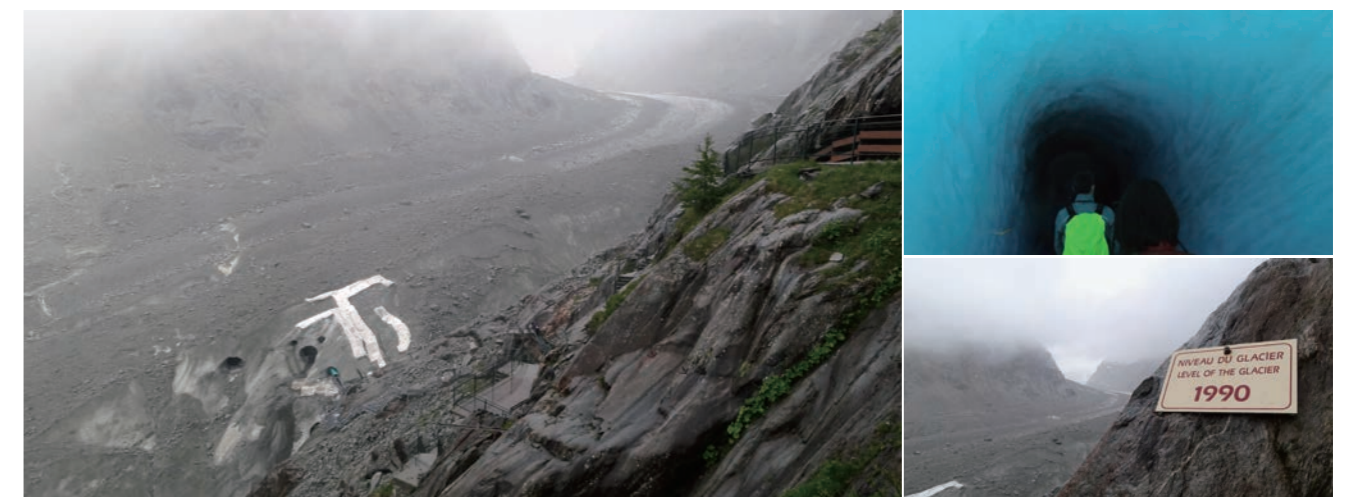


写真4 シャモニーの氷河